

## ■平成26年度 第4回 大和市街づくり推進会議 会議録■

[会議名称] 平成26年度 第4回 大和市街づくり推進会議  
[開催日時] 平成26年11月27日(木) 14時から15時30分  
[開催場所] 市役所本庁舎5階 第5会議室  
[出席委員] 5名(欠席:5名)  
[出席]: 饗庭 伸/宇津木 朋子/菅 孝能/星野 澄佳/吉田 洋子  
[欠席]: 相原 聡/須賀 良二/仙石 裕明/仲村 邦弘/松本 久美  
[事務局] 5名(街づくり計画部長、街づくり推進課長、街づくり推進担当3名、  
[担当課] 街づくり計画部 街づくり推進課 tel.046-260-5483  
[傍聴者] 0名  
[公開の状況] 公開

---

### I. 会議次第

---

1. 開会
2. 議題  
平成26年度街づくり啓発事業について
3. その他
4. 閉会

### II. 内容

---

1. 開会
2. 議題

平成26年度街づくり啓発事業について

- ・資料1をもとに事務局より説明
- 質疑応答(○…委員、▼…市)

---

○資料にあるとおり、位置づけ等の基本となる事項に関しては事務局が作成したとおりということで内容を崩さずに、これを踏まえてどのような内容で開催するかについて意見交換をすることから始めたい。

○総合計画や現在行っている事業等から新たに開催する街づくり啓発事業の位置づけを考えているようだが、今回限りで終了するような事業ではないということによいか。

▼そのとおりである。これまでは街づくり賞を毎年実施してきたが、来年度以降はこの街づくり啓発事業と交互で、もしくは数年に一度開催するようなものとしていきたいと考えている。

○継続していく事業であるならば、何を成果とするのかを明確にしなければいけない。その地域で新しく街づくり組織が生まれたり、景観地区のような新たなルールができるなど、目標があった方が良いでしょう。イベント当日だけ集まって何となく終わってしまうのは少々もったいない気がする。

- ▼街づくり学校を修了された方々が、自分たちの地域に戻って街づくり活動を実践し、その活動や出来たものを街づくり賞で評価すると言うのがこれまでの流れであった。
- ▼今回の新たな事業ではその中間的な位置づけを考えている。なかなか一日のイベントですぐに成果を得るのは難しいと思うが、定期的に開催することで少しずつ広げていきたい。
- ▼狙いとしては、市内で活動している街づくり組織の方々が集まって交流したり、そこに新たな方が交わることで一層活動自体が盛り上がっていくことができれば良いと考えている。どのような内容で開催すれば良いかについてはこれから検討したい。
- 資料のイメージ図にあるとおり、街づくり学校などの啓発事業を通して、街づくり組織や活動に発展することで良好な景観や街並みが形成されることを目指しているのか。
- ▼そのとおりである。新しい組織が生まれたり、活動が充実するきっかけとなる啓発事業となれば良い。街づくり学校修了後に街づくりサポーターとして登録して、市の事業を手助けしてくれる方は増えているが、組織化までには少々ハードルが高くなっているのが現状である。
- 街づくり学校の修了者をどのように活かしていくかという視点も必要になるだろう。また、これまで新しい方や若い方に参加して欲しいという話をしてきたが、地域の課題を実感し、危機感を持っていないと、このようなイベントに来る方は少ないだろう。
- ▼街づくりサポーターにも積極的に参加していただき、可能であれば運営にも携わることができれば良いだろう。現地調査や掲示物の作成などを依頼することも検討したい。
- ▼街づくり学校でもそうだが、若い世代を取り込むということに関して名案がないのが現状である。中学校や高校などと上手く連携できれば良いが、今のところ有効な手段が見当たらない。また、学生だけでなく、社会人でも若い方が参加すれば雰囲気も違うかもしれない。特に中央林間は世帯年齢が低いことが特徴なので、テーマ設定次第では上手く呼び込めるだろう。
- 街づくりサポーターの集いでは、参加者が街づくりについて考えるきっかけづくりとなるようにしたいということや、学生などを呼び込み、特に若い世代が出られるようなイベントにするということが話し合われた。
- 場所の問題もある。前回の街づくり推進会議では屋外で開催することも意見として出されていたが、多くの人の目に触れられるようにすると良いということを見ると林間学習センターが一番無難であると言える。
- ▼中央林間駅周辺には人が集える施設が少ない。コミュニティーセンターの中央林間、緑野の各会館は少々場所が分かりづらいのが難点である。中央林間駅と南林間駅の間地点にはなるが、確かに林間学習センターが一番集まりやすいだろう。
- ▼街づくり学校ではこれまでも子育て世代や学生などの若い世代が参加したことはあるので、差し支えない範囲で、過去の参加者へお知らせを出すことはできるだろう。市全体に向けては広報等を出すのが、あまり効果は期待できないだろう。
- 街づくり組織の活動紹介とあるが、中央林間地区のブランディングやその後のワークショップとのつながりが見えず、狙いが2つになってしまっている。中央林間地区の街を見て、自分たちの地域との違いを発見しながら、地域の価値観を見出すことが大きな目標であるのならば、活動紹介や組織の交流というのは別の機会の方が有効だろう。
- また、若い世代を呼び込むということだが、出番を作らない限り自発的に参加することはほとんどな

いだろう。実際に継続して地域の街づくりに携わっているのは年齢の高い世代である。次回参加してくれるか分からない若い世代にばかり目を向けるのは疑問に感じる。

○このようなイベントでは、様々な年代がいたほうが盛り上がるのは事実である。学校などに声を掛けて、参加してもらえれば良い。趣旨が大切なので、趣旨をきちんとPRできるような広報を出した上で、狙いを絞って呼び込みをすれば良い。

○また、年齢の高い親世代の子や孫が、親の代わりにこのような活動に参加するというケースが目立つ。親と一緒にではなかなか難しいが、離れて活動すると意外に長続きすることもある。そこをきっかけに話を広げられると盛り上がるかもしれない。

▼林間学習センターであれば学校も近くにあり、呼びかけはしやすいかもしれない。

▼資料の開催内容は前回いただいた意見を全て集約しているので、この中の全てを実施するというわけではなく、焦点を絞って開催したいと考えている。地域を絞って、そこに住む方々が自分たちの街を見直したり、他の地域の方から見てどのように評価されるかなどを客観的に考える機会にすることが狙いの一つである。それに加えてどのような内容を盛り込むかを考えていきたい。

○学校を巻き込むのであれば、先生や生徒がどのような内容に興味を持っているのか気になっている。写真やキャッチコピーなどを集めるとあるが、ロゴやキャラクターなど対象を広げてみても面白い。

○無理にテーマを設定しない方が自然な意見が出されて良いと思う。変に身構えないようにしたい。

○自分が携わっている地域では、地元の小学校と街づくりの提携を結んでいるが、高学年になると企画や広報などを自分たちできちんとできているという例もあるので、小学生を巻き込んでも良いかもしれない。また、最近では特に学生の間でゆるキャラが流行っている。

○趣旨に地域のブランドイメージを共有すると記載しているが、例えば横浜市の郊外では電鉄会社と一緒に空き家問題などの街の再生に取り組んでいる事例がある。中央林間も小田急電鉄が開発した街であり、東急電鉄も乗り入れている。

○そのような電鉄関係者も加わって一緒に街のイメージを考える機会があってもよいのではないか。彼らが入ることでビジネスとして取り組むきっかけにもなるし、住民にとっても違う発想の仕方に触れる機会にもなる。

▼小田急電鉄や東急電鉄とは別件で良く話をする機会がある。そのような事例の話も聞いたことはある。たまプラーザ駅周辺などでは、子育て世代と高齢者の住宅再配置を計画し、実施しているが、今後は中央林間駅やつきみ野駅周辺でも同様の流れになるのかもしれない。

▼電鉄会社からしても、住民がどのように考えているかを知る良い機会になるので、何かをしてもらわなくても、話を聞くだけで呼びかける価値はあるだろう。

▼中央林間地区のゴルフ場にも話をしている。休場日の月曜日に中に入らせてもらうことは大丈夫そうだが、土日では一般の利用客もいるため、会場として利用することは難しい。ただ、イベントの内容によっては何か協力いただけることはないか、働きかけをしていきたい。

○企業が参加すれば若い世代も来やすくなるかもしれない。街づくりに慣れている方はどうしても批判的な意見が多くなってしまうが、これまで街づくりに目が向いていなかった方が来ることで良い方向に向かえば良い。

▼東急電鉄が東急田園都市60周年の記念で開催したシンポジウム等のイベントでは、参加者が抽選になるほど集まったと聞く。

○大和市が青山学院大学と連携の協定を結んだという話を聞いたが、それに関連して大学に声を掛けてみるのも良いかもしれない。ただ、連携と言っても、学生個人なのかゼミ単位なのかが分からない。あるいはそれと関係なく個別にPRをしても良い。

▼今回の協定は大学との包括連携協定となっているので、キャンパスや学部に関係なく、街づくりに関することでももちろん問題はない。今のところ、具体的に何をやるかなどは決まっていないので、発意があれば協力していただけるかもしれない。

○包括連携協定は自治体も大学も掴みづらい面があるが、上手く活用できれば良い。

○内容案のワークショップをやることは前提であるが、あまり「街づくり」を強調しすぎず、「ブランドイメージ」に留めておいた方が馴染みやすいだろう。最終的には街づくり活動や組織への発展につなげるといってもフォローが必要だろう。

○参加者募集の段階で写真などを事前に集めるということだが、この点についてももう少し話が必要だろう。

▼写真を事前に集めることを想定しているが、その使い道として会場に展示することやワークショップに使用することを検討している。ブランドイメージであれば、先ほどの話にもあったとおり、写真だけでなく様々なものを集めても良い。

○事前に集めるのは難しいのではないか。

▼確かに、どれくらい集まるかは未知数であるため、募集してみないと分からないという不安はある。集まらなければならぬで致し方ないだろう。

○外から人を呼ぶのであれば、いきなり地域のワークショップを開催するのは難しいだろう。事前に地域を見てもらう仕組みが必要である。今の案である自主的に見ておいてもらうというのでは弱いので、街歩きを行う機会をきちんと設定しなければいけない。

▼街歩きのイベントを別途設定した方が良いか。

○普段見られないものを見ることができるといったプラスの要素がないとなかなか来ていただくのは難しい。以前林間都市開発の展示を行っていたが、それは使えないか。

▼つきみ野にある鶴舞の里で行っていたので、資料は一通りあるはずである。そこに小田急電鉄などの開発当時の話などを聞ける機会があれば良いかもしれない。また、先ほどのゴルフ場の記念誌などもあるようである。

○中央林間地区には多くの文化人も住んでいたことがあるので、そういうところを巡るツアーを開催しても盛り上がるだろう。

○この街歩きを二日間に分けるのか、一日の午前、午後で開催するのかを考えなくてはならない。二日間に分けると日程的に厳しいし、一日で開催した方が続きで色々できるので良いと思うがどうか。

▼地域のブランドイメージが主題であるとする、街づくり組織の活動紹介や交流会はまた別の機会にした方が良いか。

○企業と街歩きをすると分かるが、基本的に自分たちの土地しか考えていないということである。いつも点でしか考えていないが、一緒に街歩きをすることで新しい発想が生まれるということにもつながる。

○街のブランドイメージを高めるというのであれば、不動産業も巻き込んでも良いかもしれない。

▼都市計画審議会の委員に不動産業の方がいるが、普通の賃貸アパートではなく、地域の特色を出すために古くからある米軍ハウス風のイメージで建てられたものがある。歴史的な話でなくても、そのよう

な方にお話を伺うのも良いかもしれない。

○ワークショップでも各グループにそういう方がいれば話が盛り上がる。林間都市開発でほかに活用できそうなものはあるだろうか。

▼事前申し込みの形式にした方が良いか。それとも当日参加とするか。

○地元の方はワークショップのみ当日参加していただいても良いのではないかと。反対に遠くから来られる方は地域を知るための街歩きに申し込みをしていただいで、そのままワークショップに参加してもらえば良い。

○街歩きを行うのであれば、会場は林間学習センターがちょうど良いだろう。駅から色々巡りながら会場へ行くことができる。

▼事前に下見をする機会があれば、その際に先ほどの青山学院大学の学生を連れて行くこともできる。

○外部から人を呼ぶにしても、基本は大和市民のための啓発事業であることを忘れてはいけない。

○確かに、今回は街づくり組織の活動紹介や交流会はないけれども、きちんと呼びかけはしなければいけない。自分たちの街を考えるために、他の街を見ることが大切であるということをつかっていた必要がある。

○午前、午後とそれぞれ参加してもらおうとしても、なかなか難しいかもしれない。午前だけ来て、午後には帰ってしまうというケースは多いだろう。

▼確かに、午後になって誰もいなくなってしまうという事態は起こりうる。そうならないための工夫は必要だろう。

○進め方として、全員が一度にということではなく、ある程度のグループが集まった段階で街歩きを行い、帰ってきたグループから間を空けずにワークショップを実施するというようにすれば良いだろう。そうすれば当日の飛び入り参加でも対応しやすい。ただし、案内できる人手が必要になる。

○最近中央林間駅の西側にできた「ぷらっと中央林間」も上手く活用できるかもしれない。

▼集合場所を「ぷらっと中央林間」にして、ある程度人数が揃ったところで街歩きを開始し、ワークショップを行う林間学習センターに向かうようにすれば、上手く回れるかもしれない。

○一日で集まった意見などは最後の一時間程度を使ってまとめて、地元の方々に見ていただくのも良い。

○また、募集に関してはできる限り事前申し込みで人数を確保して、当日の飛び入り参加にも対応できるようにしたほうが良い。

○日程はいつ頃決まりそうか。

○現段階で候補を絞った方が、都合が良いだろう。

⇒出席委員の日程を伺い、事務局で調整をした結果、3月22日（日）の開催が決定した。

▼内容については本日いただいたご意見を参考に事務局で進め方を決定し、改めて皆さまのご意見を伺いたい。

○それでは、そのとおりに対応していただき、何かあれば随時事務局より連絡してもらおうこととする。

### 3. その他

◎中央森林地区の街づくりの進捗状況について報告した。

◎次回の推進会議は、3月上旬を目途に日程調整をすることになった。

4. 閉会

以上